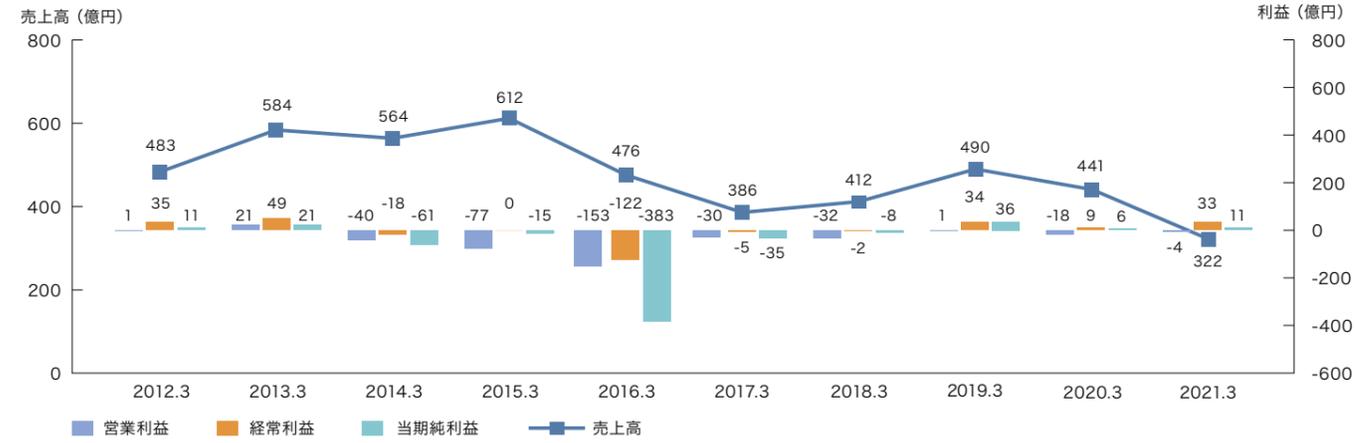
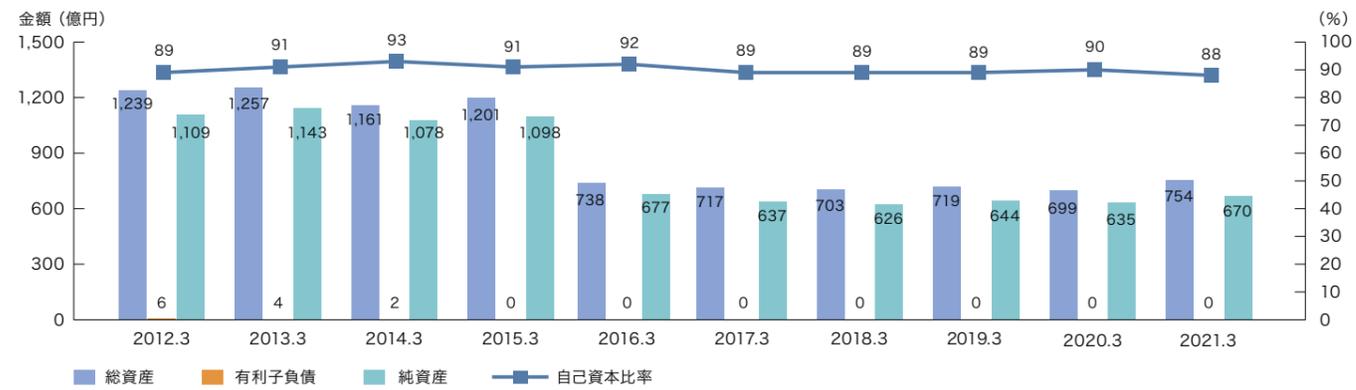


データ集

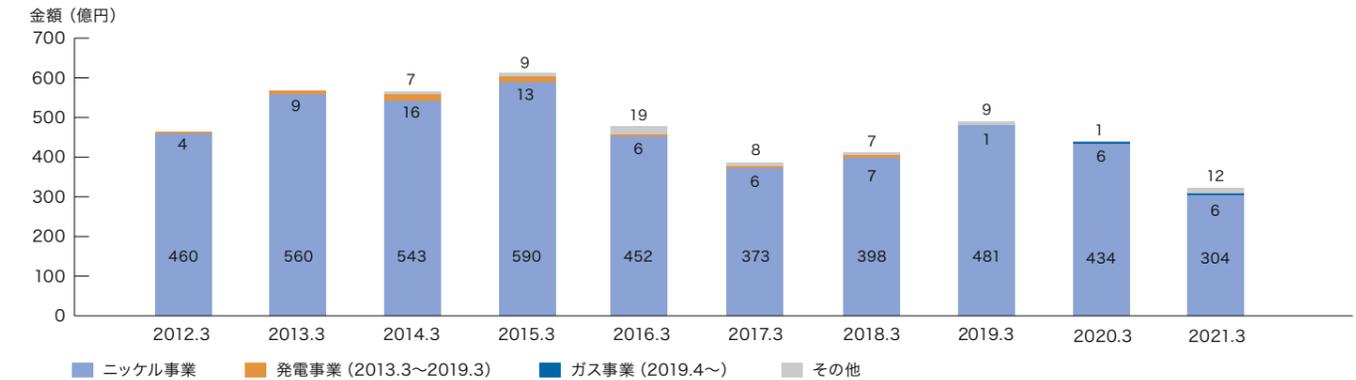
業績推移 (連結経常指標等)



財務状況推移 (連結経常指標等)



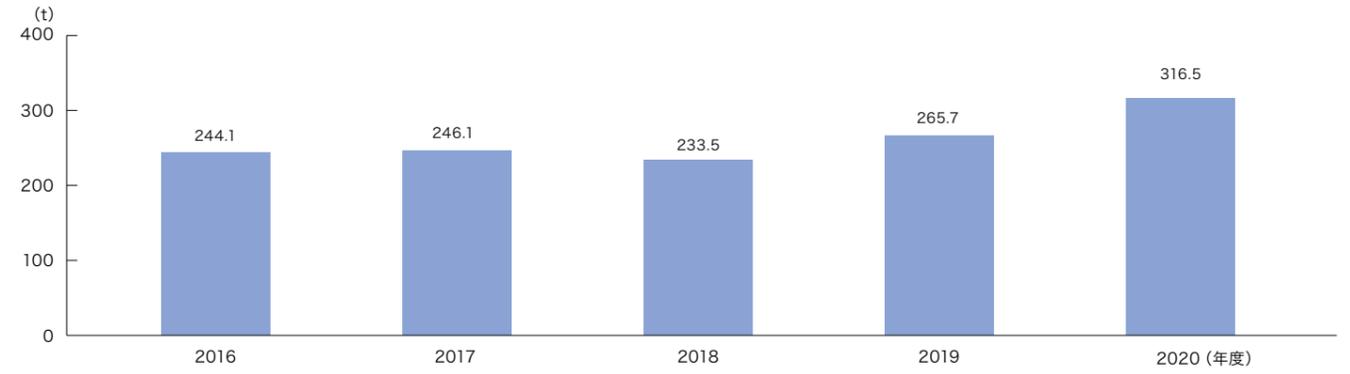
セグメントの売上高



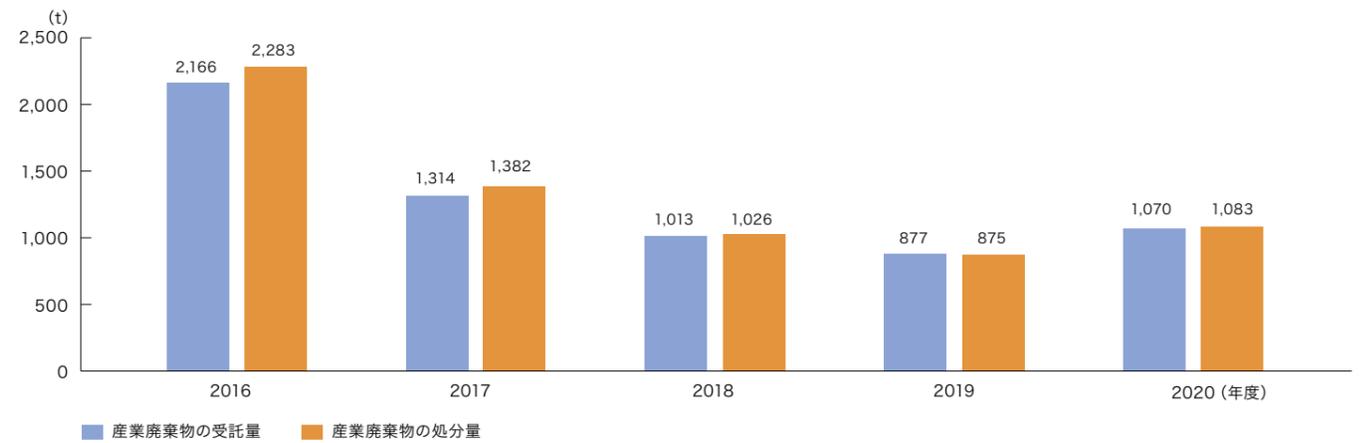
◎：連結子会社 *：持分法適用関連会社

セグメント名	会社名	出資比率	事業内容
ニッケル事業	大太平洋金属		フェロニッケル製品・スラグ製品の製造・販売、焼却灰リサイクル
	◎太平洋興産	74.0%	運搬・請負・不動産関連等
	*タガニート鉱山株式会社	33.5%	鉱石採掘・販売(フィリピン)
	*リオチュバニッケル鉱山株式会社	36.0%	鉱石採掘・販売(フィリピン)
	*パシフィックソーワ	33.7%	鍛造鋼品、産業機械等販売
ガス事業	◎大太平洋ガスセンター	50.0%	ガス類の製造・販売

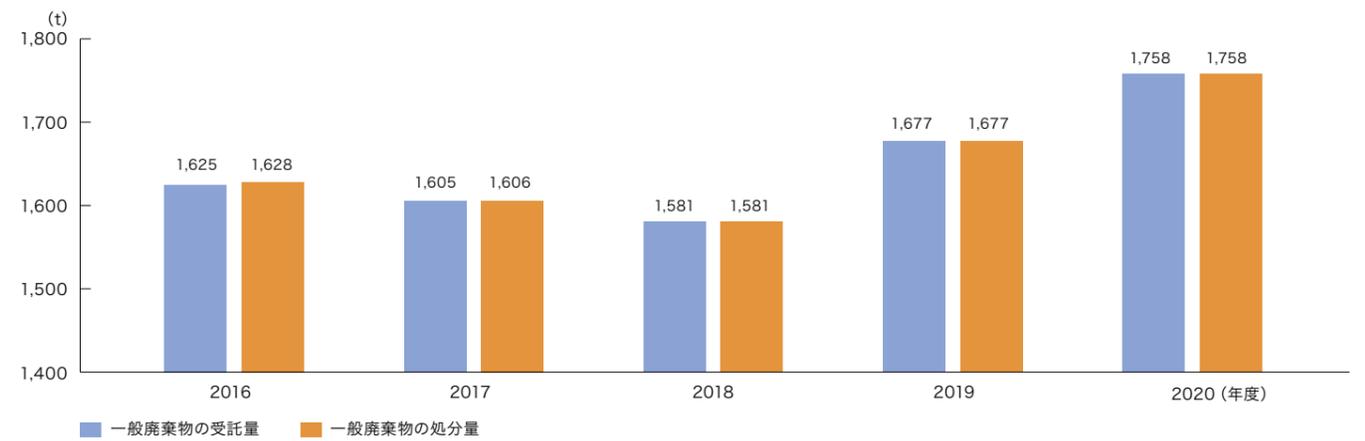
産業廃棄物の委託処分量



産業廃棄物の受託量と処分量



一般廃棄物の受託量と処分量



八戸本社全景写真：1951年と2019年

フェロニッケル生産量

151 万Net.t



※1966年11月～2020年

スラグ製品生産量

5,723 千t



※2003年度～2020年度

リサイクル事業溶融処理量

100 千Wet.t



※2008年度～2020年度

電力使用量

44,453 GWH



※1971年～2020年

ニッケル鉱石購入量

30,533 千Wet.t

※2008年度～2020年度

ニッケル鉱石船

634 船



※2008年度～2020年度

改善提案 社長賞および奨励金

18 百万円



※2009年度～2020年度

改善提案 社長賞等1年分の効果金額累計

310 百万円



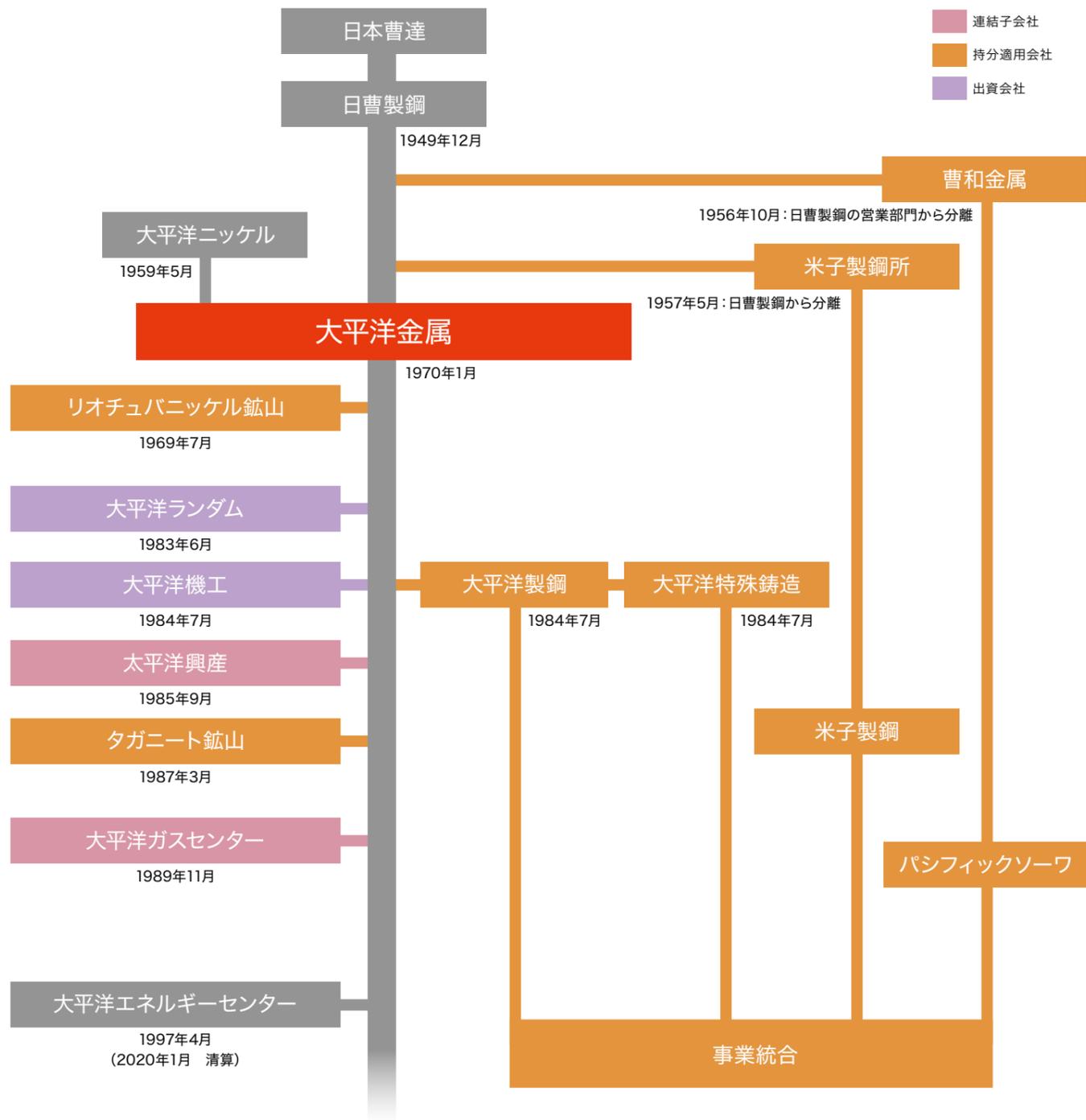
※2009年度～2020年度

環境報告ガイドライン対照表

選択項目	記載ページ/コンテンツ
第1章 環境報告の基礎情報	
1. 環境報告の基本的要件	
報告対象組織	1
報告対象期間	1
基準・ガイドライン等	1
環境報告の全体像	—
2. 主な実績評価指標の推移	
主な実績評価指標の推移	2、15、16、30、33、34
第2章 環境報告の記載事項	
1. 経営責任者のコミットメント	
重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	3、4
2. ガバナンス	
事業者のガバナンス体制	31、32
重要な環境課題の管理責任者	19
重要な環境課題の管理における取締役会及び形成職務執行組織の役割	19
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	
ステークホルダーへの対応方針	19、23、24
実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	23、24、25、26
4. リスクマネジメント	
リスクの特定、評価及び対応方法	—
上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置づけ	—
5. ビジネスモデル	
事業者のビジネスモデル	9、10、11、12、13、14
6. バリューチェーンマネジメント	
バリューチェーンの概要	29、3
グリーン調達の方針、目標・実績	17
環境配慮製品・サービスの状況	11、12、13、14
7. 長期ビジョン	
長期ビジョン	5、7
長期ビジョンの設定期間	—
その期間を選択した理由	—
8. 戦略	
持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	5、6、7、8
9. 重要な環境課題の特定方法	
事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	—
特定した重要環境課題のリスト	7、8
特定した環境課題を重要であるとした判断をした理由	—
重要な環境課題のパウンダリー	—
10. 事業者の重要な環境課題	
取組方針・行動計画	—
実績評価指標による取組目標と取組実績	—
実績評価指標の算定方法	—
実績評価指標の集計範囲	—
リスク・機会による財務的影響が多き場合は、それらの影響額と算定方法	—
報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	—

大太平洋金属の主な沿革と環境・社会関連活動

■大太平洋金属沿革図



- 1949 日本曹達株式会社の鉄鋼部門より分離独立し、日曹製鋼株式会社として発足
- 1952 東京証券取引所、大阪証券取引所に上場
- 1954 新発田工場の砂鉄銑設備をフェロニッケル製錬設備に転換
- 1957 八戸工場完成、砂鉄銑の製造開始
- 1959 フェロニッケル製錬を専業とする大太平洋ニッケル株式会社設立に伴い、新発田工場を分離
- 1965 八戸工場の銑鉄生産設備の一部を合金鉄およびフェロニッケル製錬用に転換、フェロマンガんに続いて、1966年にはフェロニッケル、1968年にはステンレス鋼の生産を開始する。1969年に2.5万KVA、1970年に4万KVAの大型電気炉2基を設置し、フェロニッケルの生産を増強
大太平洋ニッケル株式会社を吸収合併し、大太平洋金属株式会社に社名変更
- 1970 フェロニッケルのトップメーカーとしての基盤を確立
フィリピン事務所開所
- 1972 インドネシア・アネカタンバン社フェロニッケル製錬工場建設の技術援助契約締結（アンタム計画）
- 1973 フィリピンのリオチュバニッケル鉱山株式会社に資本参加し、ニッケル鉱山を開発
- 1974 テレメータシステム協定締結
- 1978 公害防止協定締結
- 1980 産業廃棄物処分業許可取得
- 1983 岩瀬工場を分離し、大太平洋ランダム（株）に研削材部門を営業譲渡
- 1984 直江津、富山、習志野工場を分離し、鋳鋼、鍛鋼、機械部門をそれぞれ大太平洋特殊铸造（株）、大太平洋製鋼（株）、大太平洋機工（株）に営業譲渡
- 1985 八戸工場を八戸製造所に改称
- 1988 フィリピンのタガニート鉱山株式会社に資本参加し、ニッケル鉱山を開発
- 1995 八戸製造所にフェロニッケル製錬電気炉6万KVA設置、3炉体制確立
- 1996 八戸港河原木第2埠頭完成（公共）
- 1997 原料輸送コンベアライン設備完成（河原木）
- 1998 ISO9002取得
- 1999 本社機構を八戸に移転しフェロニッケル専業メーカーになる
- 2003 リサイクル事業の「焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル施設」完成
ISO9001:2000に移行
- 2005 フェロニッケル100万トン生産達成
青森県環境影響評価条例に伴う環境アセスメントを実施
特別管理産業廃棄物処分業許可取得
- 2006 フェロニッケル製造ライン増強工事完了
第二発電所脱硝装置設置
- 2007 全排水溝へ排水モニター設置
排水口の一部に小規模排水処理装置を設置
- 2008 ジャカルタ事務所開所
ISO14001:2004取得
- 2009 フェロニッケル製造ライン増強工事完了
- 2010 鉱石ヤードへのダストモニター設置
廃棄物処理状況のホームページ公開
- 2011 排水口、煙突監視カメラの設置
- 2012 OHSAS18001:2007取得
- 2013 排水終末処理施設運転開始
- 2014 統合マネジメントシステム運用開始
- 2015 コーポレートガバナンスに関する基本方針制定
- 2016 新たに「経営理念」「長期ビジョン」を策定
一般社団法人青森県産業廃棄物協会から「優良事業所」表彰
- 2017 八戸工場大学アートプロジェクトへの参加
- 2018 もったいない・あおもり県民運動10周年記念大会において、「もったいない・あおもり賞」を受賞
- 2019 ヴァンラーレ八戸専用サッカー場「PAMCOフィールド」のネーミングライツ取得
- 2020 (特別管理) 産業廃棄物処理業者【優良】認定取得
- 2021 ISO45001:2018に移行

編集後記

新型コロナウイルス感染症の拡大により、日々変わる業務環境に合わせ、本報告書の編集を進めてまいりました。2020年度の本報告書から、公開情報を拡充し、サプライチェーンマネジメント、主要な財務・非財務のデータ集などを新たに掲載しています。このような状況だからこそ、ESGに関する活動を進めることが、より重要なことと感じています。今後もより一層、ESGに関する重要な課題などに取り組み、持続可能な企業活動を進めてまいります。